

## 喫煙対策の基礎知識 その5

### 「受動喫煙」を表す専門用語の変遷

産業医科大学 名誉教授 大和 浩

先日、あるメイリングリストで久しぶりに「環境タバコ煙」と書かれた投稿を見かけました。1990年代、英語の科学論文では *Passive Smoking*, *Involuntary Smoking*<sup>1)</sup>, *Environmental Tobacco Smoke (ETS)* の3つが同時に使われていました。私は、受動喫煙の指標として、デジタル粉じん計により  $10\mu\text{m}$  以下の浮遊粉じんのリアルタイムモニタリングをしていたことから、直訳すれば「環境タバコ煙」で粉じんの意味合いを含む *ETS* を2004年まで使っていました<sup>2)</sup>。ところが、この言葉は「自然発生的に存在する」というニュートラルな印象を持たせるためにタバコ産業が作った造語だったのです。

2000年代になり、まず、海外のメディアが「中古の煙」を意味する *Second-hand Smoke (SHS)* を使い始めました<sup>3)</sup>。新品 (*brand-new*) に対して中古品「セコハン」を使うと、受動喫煙に対するイメージを貶めることができます。その後、科学論文も意識して *SHS* を使うようになりました。

結果として、

- ・一次喫煙：能動喫煙、喫煙者が主流煙を吸い込むこと
  - ・二次喫煙：受動喫煙、副流煙と喫煙者が吐き出す呼出煙（粒子とガスの混合物）を吸わされること
  - ・三次喫煙：残留タバコ成分、別の場所で吸ってきた人の呼気に含まれるガスを吸わされること
- と整理されて分かりやすくなりました。ちなみに、台湾のパッケージでも *Second-hand* を表す「二手」が使われていました（草かんむりに於でタバコを意味します）。

1) IARC Monographs. Vol. 83. Tobacco Smoke and Involuntary Smoking. 2004.

2) Environmental Tobacco Smoke and Policies for its Control. Yamato H, et al. Industrial Health. 34: 237-244, 1996.

3) 受動喫煙のない社会にするには. 大和浩. 循環器専門医 第17巻第2号: 346-351, 2009.

